

平成30年度

九州大学大学院生物資源環境科学府
外国人留学生入試（前期）学生募集要項

平成29年6月

九州大学大学院生物資源環境科学府

生物資源環境科学府のアドミッションポリシー

21世紀の人类的課題である食料問題と環境問題を克服し、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉に貢献するため、生命科学、環境科学、社会科学などの学問分野に強い関心と専門基礎知識を有し、国内外を問わず、将来生物資源環境科学諸分野で活躍を目指す意欲的な学生を求めている。

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者で、平成30年4月までに入国済若しくは入国可能な者。

(博士前期修士課程)

- (1) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者。
- (2) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、学士の学位を得た者で、本学府において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者。

(博士後期課程)

- (1) 外国で修士論文の審査を受け、修士の学位を得た者。
- (2) 本学府において、修士の学位を得た者と同等以上の学力を有すると認められた者。

注1) 各号において、学士又は修士の学位を平成30年3月までに取得見込みの者を含む。

注2) 出願資格(2)による出願者は、出願に先立ち5.に記載する出願資格の事前審査を受けなければならない。

2. 募集専攻及び募集人員

募集専攻	募集人員
資源生物学専攻	若干名
環境農学専攻	若干名
農業資源経済学専攻	若干名
生命機能科学専攻	若干名

※各専攻の研究分野等については、13～14頁を参照のこと。

3. 願書受付期間

平成29年7月18日(火)から平成29年7月21日(金)17時まで(郵送の場合も同日の同時刻までに必着のこと。)

4. 出願手続

(1) 提出書類及び検定料

提出書類等	注意事項
入学願書 受験票 照合票	本学所定の用紙を用い、黒インク又はボールペンで記入すること。 出願3ヶ月以内に撮影した上半身、脱帽の写真(3.5cm×2.5cm)を所定の位置に貼ること。
卒業証明書等 (出願資格(2)による 出願者は不要)	(博士前期(修士)課程) 出身大学(学部)長が発行した卒業(見込み)証明書。 (博士後期課程) 出身大学(研究科)長が発行した修士課程修了(見込み)証明書。
成績証明書 (出願資格(2)による 出願者は不要)	(博士前期(修士)課程) 出身大学(学部)長が発行した成績証明書。 (博士後期課程) 出身大学(研究科)長が発行した修士課程成績証明書。

修士論文	(博士後期課程のみ) 修士論文を志望研究分野の指導教員に提出すること。
在留カード等	(入国済者) 在留カード(両面)及びパスポート(顔写真があるページ)の写し。 (未入国者) パスポート(顔写真があるページ)の写し。
外国語資格試験	外国語資格試験のスコア事前提出については5頁を参照。
検定料	30,000円(銀行振込)
受験票発送用封筒	長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に、出願する者の郵便番号、住所、氏名を明記し、362円分の切手(速達料金を含む。)を貼ったもの。 (本学部・学府に在学中の者は学内便の送付先(研究室名・氏名)を記入すること。(切手不要))
住所票(シール)	合格通知送付用(平成29年9月4日発送)・入学手続き書類送付用(平成30年2月中旬頃発送)の住所票それぞれに、確実に郵便を受領できる住所、氏名を明記すること。 (本学部・学府に在学中の者は学内便の送付先(研究室名・氏名)を記入すること。)

(2) 出願書類提出先

九州大学農学部学生係

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 電話 (092) 642-2814、2815

(3) 出願方法

(1) の提出書類及び入学検定料原符を一括し、所定の期日までに提出先へ持参又は郵送すること。
郵送の場合は、必ず書留速達とし、封筒表面に「外国人留学生入試願書在中」と朱書きすること。

(4) 受験票について

受験票が試験日の1週間前になっても郵送(本学部に在学中の者は、学内便)で届かない場合には、
4. (2) 出願書類提出先へ連絡すること。

5. 出願資格の事前審査

1. の出願資格の(2)による出願者は、出願に先立ち出願資格の事前審査を行うので、次の書類を
4. (2) の出願書類提出先へ提出すること。

なお、郵送の場合は、必ず書留郵便として封筒表面に「外国人留学生入試事前審査」と朱書きすること。

(1) 提出書類

提出書類等	注意事項
出願資格認定申請書	本学所定の用紙に必要事項をみれなく記入すること。
最終学校の卒業(修了)証明書	最終出身学校長が発行したもの。
最終学校の成績証明書	最終出身学校長が発行し、厳封したもの。
学修歴、活動歴、実務経験等	現在までの学修歴、活動歴、実務経験等(以下「学修歴等」という)について、具体的に自由形式で記述したものを提出すること。 なお、学修歴等については下記①～④のような事項が考えられる。 また、学修歴等に関する著書、論文、報告書等があれば添付すること。 ① 大学、短期大学、高等専門学校等における学修歴 ② 研究機関、教育機関、企業等における実務経験等 ③ 海外における国際的団体等での活動経験 ④ 英語を含む語学力
返信用封筒 (資格審査結果送付用)	長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に、事前審査を受ける者の郵便番号、住所、氏名を明記し、362円分の切手(速達料金を含む)を貼ったもの。

(2) 提出期間

要項発表の日から平成29年6月16日(金)17時までの期間

(3) 審査結果

審査の結果については、平成 29 年 7 月 5 日（水）までに申請者あてに通知するので、資格があると認定された者は、4. の出願手続を行うこと。

6. 試験日、試験時間及び試験科目

(博士前期（修士）課程)

月日(曜)	時間	試験科目	集合時間
8月17日(木)	10:00~12:00	専門科目	各教育コース等の指示による
	13:00~	口頭試問	各教育コース等の指示による
8月18日(金)	10:00~11:00	日本語(作文)	9:50

(博士後期課程)

月日(曜)	時間	試験科目	集合時間
8月17日(木)	13:00~	口頭試問	各教育コース等の指示による
8月18日(金)	10:00~11:00	日本語(作文)	9:50

※ 博士前期（修士）及び博士後期課程の口頭試問の方法は各教育コースで決定し、事前に受験者に通知する。

※ 試験室及び試験時間割は、平成 29 年 8 月 16 日（水）農学部公用掲示板(1号館横)に掲示する。

7. 選抜方法

事前提出された外国語資格試験スコア、筆記試験、口頭試問、成績証明書を総合して行う。
専門科目については、6~12 頁を確認すること。

8. 合格者発表

平成 29 年 9 月 1 日（金）16 時に農学部公用掲示板（1号館横）に掲示するとともに、合格者には本人あてに通知する。（本学部に在学中の者へは、学内便にて通知する。）

9. 入学料及び授業料

入学料：282,000 円（予定額）

授業料：〔前期分〕267,900 円（予定額）〔年額〕535,800 円（予定額）

※ 入学料・授業料については、入学時まで改定が行われた場合には、その改定額を適用する。また、授業料について在学中に改定が行われた場合には、改定時から新授業料を適用する。

※ 日本国政府の国費留学生及び中国政府の国家建設高水平大学公派研究生項目留学生については不要。

10. 願書等請求

募集要項及び入学願書等の請求は、4. (2) の出願書類提出先へ行うこと。

なお、郵送で請求するときは、返信先住所、氏名等を明記して郵便切手 205 円分を貼った角形 2 号封筒(縦 33.2 cm×横 24.0 cm)を同封の上、封筒表面に「外国人留学生入試願書請求」と朱書きすること。

11. 注意事項

- (1) 願書を提出する際は、志望研究分野の指導教員に必ず事前に連絡を取ること。
- (2) 願書受理後は記載事項の変更・検定料の払い戻しはできない。ただし、検定料納付後、出願しなかった者及び受理できなかった者については返還するので、4. (2) の出願書類提出先へ連絡すること。
- (3) 受験票未受領者又は紛失した者は、試験開始前までに農学部学生係（農学部 1 号館）で受領すること。
- (4) その他不明の点があれば、4. (2) の出願書類提出先へ問い合わせること。

12. 個人情報の取り扱いについて

入学者選抜の過程で収集した個人情報は入学者選抜の実施、入学手続き、入学後の奨学・厚生補導並びに修学指導に関する業務を行うために利用し、上記の目的以外には利用しません。

13. 受験上の注意

- (1) 試験当日は、各試験科目の集合時間を厳守すること。試験室には、集合時間の10分前から入室できる。
- (2) 携帯電話等は、試験室に入る前にアラームの設定を解除し、必ず電源を切っておくこと。
- (3) 遅刻による試験室への入室限度時刻は試験開始後30分とする。なお、交通機関の事故又はやむを得ぬ事由により、試験開始後30分以上遅刻した者は、監督者に申し出ること。
- (4) 試験終了までは、退室できない。

14. 入学志願に当たっての留意事項

本学府では、入学後に専攻・研究分野を変更することは原則として許可されない。従って、志望専攻・研究分野の決定に当たっては、研究内容等について十分に検討した上で出願すること。

15. 成績開示について

開示期間等詳細については、本学府HP (<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/>) を参照すること。

16. キャンパスの移転について

生物資源環境科学府は、平成30年10月に伊都地区への移転を予定しております。

●外国語試験

外国語試験は、TOEIC、TOEFL-iBT、IELTS、Cambridge またはこれらに準ずる英語資格試験のスコア証明書を出願手続きの際に提出すること。試験当日、筆記試験は行わない。

(1) スコア証明書とは、実施団体が発行し本人に直接郵送したもので、例えば TOEIC の Official Score Certificate (公式認定証) または TOEFL の Test Taker Score Report あるいは Examinee Score Report (受験者成績書) を指す。いずれのスコアも出願書類提出時から 2 年以内のものに限る。

(2) 以下のスコアは認められない。

TOEIC IP、カレッジ TOEIC、TOEIC ITP などの団体受験制度

TOEIC Speaking and Writing、TOEIC Bridge、TOEIC IP Score Report

(3) 正式な成績証明書、認定書の原本の提出について

TOEFL の Examinee Score Report などは仮スコアです。TOEIC (Official Score Certificate)、TOEFL-iBT (Official Score Report)、IELTS (Test Report Form)、Cambridge (Certificate) 等の正式な証明書の原本を試験当日持参するか、あるいは試験日までに九州大学農学部学生係に届くように手続きをすること。

(4) 注意事項

- ・ 願書の該当欄にスコアを記入するとともに、出願時にスコア証明書 (写し) を提出すること。
- ・ 上記の資格試験を受験しているが、出願期間内にスコアが届かない場合は、願書に受験した月日を記載し、スコア証明書が届き次第、写しを提出すること。入学試験日以降は受理しない。
- ・ 出願時より新しいスコア証明書 (原本) を持参してもよい。最終的な評価は当日持参のスコア証明書 (原本) のみに拠る。原本に関しては試験当日の本人確認後、本人へ返却します。
- ・ 試験当日スコア証明書 (原本) を忘れた場合は、8月23日(水) 17時までに、九州大学農学部学生係へ持参又は郵送すること。

なお、郵送の場合は、返信用封筒を同封のうえ、8月23日(水) 17時必着とする。

スコア証明書 (原本) 提出について、提出期限厳守とし期限を過ぎてからの提出は認めない。

専門科目出題範囲

- ①出願者は志望研究分野の専門科目を受験する。
- ②専門科目は、以下の専門及び専門基礎両方の領域を含む。
- ③過去に出題された問題については、指導教員に確認すること。

資源生物学専攻

教育コース	研究分野	出題領域	出題範囲
農業生物学	植物育種学	専門	植物育種学 植物遺伝育種学(武田和義著、裳華房)、植物育種学 第4版(朝倉書店)など、植物育種学に関する教科書。「植物育種学」について、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	遺伝学 エッセンシャル遺伝学、第3版(培風館、D.L.ハートル著)(日本語)、Essential Genetics: A Genomics Perspective (英語) ペーパーバック - 2012/11 Sixth Edition
	作物学	専門	作物学の基礎 I (農文協、中村聡、後藤雄佐、新田洋司著) また、過去に出題した問題を参照のこと。
		専門基礎	テイツ、ザイガー植物生理学(培風館、L.ザイガー、E.ザイガー編、西谷和彦、島崎研一郎監訳、第3版):オーキシン(427ページ)～ストレス生理学(632ページ)までを試験範囲とする。また過去に出題した問題を参照のこと。
	植物生産生理学	専門	植物生産生理学の基礎(農文協、平沢・大杉編)の第3、4、6～8、10、11章
		専門基礎	植物生理学第3版(培風館、テイツ・ザイガー編)の第1、4、8、9章
	昆虫ゲノム科学	専門	分子昆虫学-ポストゲノムの昆虫研究-(共立出版、神村学他編):第1章～5章。 過去に出題した問題も参考のこと。
		専門基礎	分子遺伝学 エッセンシャル遺伝学(培風館、D.L.ハートル著、第3版):第1章～12章 過去に出題した問題も参考のこと。
	動物学	専門	ウィルト発生生物学(東京化学同人、FH Wilt, SC Kake著、第1版):第一部発生開始(3ページ)～第三部脊椎動物の器官形成(160ページ)まで。過去に出題した問題も参考のこと。
		専門基礎	哺乳類の生物学①「分類」(東京大学出版会、金子之史著)の内、1.分類学とはなにか、2.分類学と哺乳類(1～46ページ)、および哺乳類の生物学②「形態」(東京大学出版会、大森司紀之著)の内、1.体の基本構造、3.運動系、4.歯。過去に出題した問題も参考のこと。
	昆虫学	専門	節足動物の多様性と系統(裳華房、岩槻邦夫・馬渡俊輔 監修、石川良輔編)の第Ⅲ部 5.六脚亜門(吉澤和徳他著)。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	基礎昆虫学 最新応用昆虫学(朝倉書店、田付貞洋・河野義明編)の第2章 昆虫学の基礎。
	植物病理学	専門	「微生物と植物の相互作用」(百町満朗・対島誠也編) また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	「植物病理学」(文永堂出版、眞山滋志・難波成任編)、「植物病理学」(東京化学同人、大木理編)
	天敵微生物学	専門	最新 昆虫病理学(講談社、国見裕久・小林迪弘編著):第2章微生物と昆虫～第6章ウイルス病(P.14～P.145)、第9章昆虫における生体防御～第10章昆虫病理学の展開(P.182～P.243)を出題範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	バイオテクノロジーテキストシリーズ「新・微生物学」(講談社、別府輝彦著)、基礎生物学テキストシリーズ4「微生物学」(化学同人、青木健次編著)
	天敵昆虫学	専門	IPM、生物学的防除、天敵昆虫に関する問題(バイオロジカルコントロール(朝倉書店)、総合的害虫管理学(養賢堂)など)
		専門基礎	生態学、進化生物学、応用昆虫学、天敵昆虫に関する問題(生態学入門、1章から8章(日本生態学会編、東京化学同人)第2版、バイオロジカルコントロール(朝倉書店)、総合的害虫管理学(養賢堂)など)
	生物保護管理学	専門	総合害虫防除、侵入害虫問題、生物学的防除の基礎に関する問題、(応用昆虫学の基礎(中筋ら)朝倉書店など)
		専門基礎	行動生態学、個体群生態学、群集生態学、動物生態学(伊藤ら)蒼樹書房
園芸学	専門	「園芸学」(文永堂出版、金浜耕編著)、「(農業基礎シリーズ)園芸学の基礎」(農山漁村文化協会、鈴木正彦編著)	
	専門基礎	「(生命科学のための基礎シリーズ)生物」(実教出版、星元紀ほか著)	
農業生産生態学	専門	「新訂 食用作物」(養賢堂、国分丈衛著)、「園芸学」(文永堂出版、金浜耕編著)、「園芸学の基礎(農業基礎シリーズ)」(農山漁村文化協会、鈴木正彦編著)、過去に出題した問題も参考のこと。	
	専門基礎	「生物(生命科学のための基礎シリーズ)」(実教出版、星元紀ほか著)、過去に出題した問題も参考のこと。	
生物環境調節学	専門	新農業環境工学(日本生物環境調節学会編、2004年・養賢堂)	
	専門基礎	コア講義 生物学(田村隆明著、2008年・裳華房)、主に「第11章 植物の生き方」から出題、同じカテゴリならば他の生物学教科書でも概ね共通する基礎的事項について出題する。	
熱帯作物・環境学	専門	熱帯園芸作物の生産、および熱帯の農林生態系における生物多様性の評価と保全に関して出題する。「熱帯農業(渡辺浩之ら著 朝倉書店)」、「熱帯農業概論(田中明編著 築地書館)」、「熱帯の植物遺伝資源(社団法人)国際農林業協力協会、1999年」、「熱帯野菜栽培ハンドブック(社団法人)国際農林業協力協会、1993年」、「熱帯昆虫学(矢野宏二・矢田修編、九州大学出版会、1999年)」、「熱帯生態学(田村俊和ら編、朝倉書店、2004年)」	
	専門基礎	熱帯の農林業生態系、熱帯産作物の生理・生態、熱帯における農業・農村開発(World Development Report 2008 - Agriculture for Development (World Bank 2007) [https://siteresources.worldbank.org/INTWDR2008/Resources/WDR_00_book.pdf] (邦訳)「世界開発報告2008 開発のための農業」(世界銀行、一灯社・2008年)等を参考	
植物光生理学	専門	テイツ・ザイガー植物生理学(培風館、L.ザイガー・E.ザイガー編、西谷和彦・島崎研一郎監訳、第3版)のⅢ編(14～25章)	
	専門基礎	Essential細胞生物学(南江堂、Bruce Albertsら著、中村桂子・松原謙一監訳、原書第3版)	

資源生物学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
動物・海洋生物学	家畜生体機構学	専門	味覚受容機構・腺性下垂体の細胞学	本研究分野のウェブサイトに掲載している2014年以降の発表論文のうち、左記出題領域に関連するもの。 http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/chiku2/accomplishment-article.html また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	動物組織学・動物形態学	生物(生命科学のための基礎シリーズ) 第3章 (大島泰郎監修、実教出版) 図説動物形態学 (福田勝洋編著、朝倉書店)
	動物繁殖生理学	専門	動物生殖生理学	スキロ動物生殖生理学(講談社、Keith K. Schiro著)。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	生理学	哺乳類の生殖生物学(学窓社、監修:高橋迪雄)。また、過去に出題した問題を参考のこと。
	畜産化学	専門	食肉科学、骨格筋科学	畜産物利用学(文永堂出版、斎藤忠夫ら著):第2章「肉の科学(p.123-213)」および「最近のトピックスと諸問題(食肉および加工食品 p.283-287);筋発生の細胞生物学(学会出版センター小沢鉄二郎ら著):p.1-46, p.153-181, p.196-212;身体運動・栄養・健康の生命科学Q&A 骨格筋と運動(杏林書院、跡見ら編)を出題範囲とする。過去に出題した問題を参照のこと。
		専門基礎	基礎細胞生物学	上記の範囲から出題するが、細胞生物学に関する基礎的な知識として、以下の教科書の指定範囲の内容を習得することを求める。 Essential細胞生物学 原著第3版(南江堂、B. Albertsら著 中村桂子・松原謙一監訳):第4、7、11-14、16-18章
	代謝・行動制御学	専門	家畜飼養管理学	以下の2領域から1領域を選択 1. 動物の栄養 第2版(文永堂出版、唐沢豊・菅原邦生編)の第2章から第9章 ニワトリの科学(朝倉書店、古瀬充宏編集)の4. ニワトリの栄養、5. ニワトリの飼料、10. ニワトリの管理 2. 一目でわかる内分泌学 第2版(メディカル・サイエンス・インターナショナル)の第1、4、9、10章 時間生物学(化学同人、海老原史樹文・吉村崇編)の第1章から第6章
		専門基礎	動物生理学	新編家畜生理学(養賢堂、加藤和夫・盧尚建・古瀬充宏編著)
	家畜生産生態学	専門	畜産学	「最新畜産学」(朝倉書店)の全般から出題。過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	ウシの科学	「牛の科学」(朝倉書店)全般から出題。
	海洋生物学	専門	魚類生殖生理学	魚類生理学の基礎(恒星社厚生閣、会田勝美編)
		専門基礎	魚類生理学	水圏生物学入門(恒星社厚生閣、会田勝美編)
	水産増殖学	専門	水産増殖学	過去に出題した問題を参考のこと
		専門基礎	魚類学	過去に出題した問題を参考のこと
	水産生物環境学	専門	環境毒性学	「環境科学入門:地球と人類の未来のために(川合 真一郎他著 化学同人)」の1-10章まで
		専門基礎	水圏環境学	「生物海洋学入門 第2版(Lalli and Parsons著、関 文威(監修) 講談社)」の1-5章まで
	アクアフィールド科学	専門		シリーズ現代の生態学9 淡水生態学のフロンティア(共立出版、日本生態学会編) 第3章から第11章まで 図説 無脊椎動物学第3版(朝倉書店、本川達雄監訳) 第3部第14章から第16章まで
		専門基礎		生態学入門第2版(東京化学同人、日本生態学会編) 図説 無脊椎動物学第3版(朝倉書店、本川達雄監訳) 第1部から第2部まで

環境農学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
森林環境科学	森林計画学	専門	森林計画学	森林計画学(朝倉書店、木平勇吉編著、2003年)の全領域 森林・林業白書(全国林業改良普及協会、林野庁編、試験の前年度に発行されたもの)の全領域
		専門基礎	基礎統計学	初等統計学(培風館、ポール G.ホーエル(著)、浅井 晃・村上 正康(翻訳)、第4版、1981年)の全領域
	森林保全学	専門	砂防学、治山学	1)新砂防工学(朝倉書店、塚本良則他編著、1991年): P2~134、145~155 (山腹緑化工および海岸砂防含む、雪崩は除く砂防学全般)、2)溪流生態砂防学(東京大学出版会、大田猛彦他編、1999年): P7~27、150~167(溪流・水辺林、溪流魚道)
		専門基礎	地形学、地質学、気象学、水理学、土質力学など	1)地球惑星科学入門(第2版、北海道大学出版会、在田一則他編著、2015年): P59~146、229~270(地震、火山、地質、地形、気象)、2)新砂防工学(朝倉書店、塚本良則他編著):第9章<砂防の基礎知識> P156~181(水理学概要・土質力学概要、地形地質調査法概要)
	造林学	専門	造林学	造林学 第四版(朝倉書店、丹下健、小池孝良編集、2016年):第1章、第3章から第6章、第9章から第11章
		専門基礎	生物	生命科学のための基礎シリーズ 生物(実教出版、大島泰郎監修、2004年):3-3 植物の構造と機能、4-1 生物の環境と生態系、4-2生態系(エコシステム)の構成、4-3生物の集団、4-4生物種間の相互作用(155ページから232ページ)
	森林政策学	専門	森林政策学	現代森林政策学(日本林業調査会、遠藤日雄編著):第1章~第8章:1~150ページ 森林・林業白書(全国林業改良普及協会、林野庁編、試験の前年度に発行されたもの)の全領域
		専門基礎	社会経済学	現代社会経済学(桜井書店、北村洋基、改訂新版、2013年):第1章~第10章:1~158ページ
	植物代謝制御学	専門	植物生理学	ベーシックマスター植物生理学(オーム社、塩井・井上・近藤共編、2009年):全範囲
		専門基礎	森林遺伝育種学 生物	森林遺伝育種学(文永堂出版、井出雄二・白石進編、2012年):第2章p19~69、第3章p75~136、第5章p237~280 科学のための基礎シリーズ 生物(実教出版、大島泰郎監修、2004年):第1章(1-1~1-3)、第2章(2-1~2-6)、3-3、4-1、4-2、4-3、第5章
	森林生産制御学	専門	森林生態学 樹木学	森林生態学(シリーズ 現代の生態学 8)(共立出版、日本生態学会編、2011年):全領域 樹木学(築地書館、ピーター・トーマス、2001年):全領域、いずれかの領域を選択する。
		専門基礎	生物学	多様性からみた生物学(裳華房、岩槻邦男著、2002年):全領域 細胞からみた生物学(裳華房、大田次郎著、2002年):全領域
	流域環境制御学	専門	森林水文学 景観管理学	森林水文学2問:水文学(共立出版、杉田倫明・田中正編著、2009年) 景観管理学2問:森のバランス(森林立地学会編、東海大学出版会、2012年)
		専門基礎	物理、化学、 生物、数学	(8問中2問選択) 物理2問:ゼロから学ぶ土木の基本 水理学(オーム社、内山久雄監修、2013年):1~7章 化学2問:無機化学(上)(東京化学同人、ハウスクロフト著、2012年):7~8章 生物2問:大学生物学の教科書第5巻生態学(講談社、・デイヴィッド・サダヴァ著、2014年):26~27章 数学2問:入門統計学(オーム社、栗原伸一著、2011年):1~7章
生産環境科学	灌漑利水学	専門	灌漑工学 利水工学	灌漑工学:新編灌漑排水 上巻(養賢堂、丸山利輔他共著) 利水工学:農業水利演習1 農業水文(コロナ社、石橋豊他共著、6章水文確率~10章単位図法)、LP法、タンクモデル
		専門基礎	土壌物理学	土壌物理学(築地書館、ウイリアム・ジュリー、ロバート・ホートン著、取手伸夫監訳)
	水環境学	専門	水環境工学	農業農村地域(河川・湖沼・沿岸域ならびに集水域)の水環境ならびにその解析手法
		専門基礎	水理学	静水力学、ベルヌーイの定理、運動量の定理、管路路定常流、開水路定常流
	土環境学	専門	農地環境工学 農地保全学	学部専攻教育科目(生物生産環境工学分野科目)の農地環境工学、農地保全学の授業内容から出題する。授業内容の詳細は、授業シラバス(https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/mpusweb/top.do)をご覧ください。 <学習用参考図書例> 山路永司、塩沢 昌編「農地環境工学」(文永堂出版)
		専門基礎	土質理工学 I 土質理工学 II	学部専攻教育科目(生物生産環境工学分野科目)の土質理工学 I、IIの授業内容から出題するが、出題範囲は下記の通りである。授業内容の詳細は、授業シラバス(https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/top.do)をご覧ください。 土質理工学 I(土の基本的性質、土中の水理、土の圧縮と圧密、土の自重による地盤内応力) 土質理工学 II(土のせん断、土圧、斜面の安定) <学習用参考図書例> 西田一彦ほか著「土質力学」(鹿島出版会)、地盤工学会「土質試験-基本と手引き-」改訂編集WG編「土質試験-基本と手引き-(第二回改訂版)」(社団法人 地盤工学会)
	土壌学	専門	土壌学	大学向けの「土壌学」、「土壌サイエンス」などの教科書でカバーされている内容
		専門基礎	分析化学	酸塩基平衡、沈澱平衡、錯形成平衡、酸化還元平衡など、基礎分析化学でカバーされている物理化学的な事項
	気象環境学	専門	農業気象学	地表面における微気象、植物の環境応答、農業気象災害、施設的环境調節
		専門基礎	気象学	放射、大気力学・運動、大気熱力学、降水過程、気候変動
	農業生産システム設計学	専門	生物生産機械学	農作業(播種、耕うん、移植、管理、収穫)機械の構造・役割・機能と農業動力(生物生産とエネルギー、内燃機関)に関して出題
		専門基礎	材料力学	棒要素の圧縮・引張、棒要素のねじり、梁のせん断力と曲げモーメント、断面の幾何学、梁のたわみ、応力とひずみ
	農産食料流通工学	専門	農産食料工学	収穫後の農産物の選別、調製、加工、乾燥、冷却、貯蔵、鮮度保持などポストハーベスト技術と農産施設に関して出題
		専門基礎	熱工学	熱力学の法則、熱サイクル、伝熱(熱伝導、熱伝達、熱放射)、冷凍機、ヒートポンプ、空調調和

環境農学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
サステイナブル資源科学	木質資源理学	専門	木質理学	①木材の材質, ②木材の物理, ③木材の組織 木材科学講座2 組織と材質 海青社, 木材科学講座3 物理 海青社, 木質の構造, 文永堂
		専門基礎	基礎物理 基礎生物	①力と運動, ②植物の構造と機能
	木質材料工学	専門	木質材料工学	木材科学講座3「物理」(海青社:高橋徹・中山義雄編)第1章～第4章のうち木材に関する専門事項、及び、木材科学講座8「木質資源材料」(海青社:鈴木正治・徳田迪夫・作野友康編 改訂増補):第5章木質資源材料-第1節～第6節(第7節～第9節も参照されると、この分野の理解が進みます)、または、これら2冊と同等以上の木材及び木質材料に関する専門書
		専門基礎	木質材料基礎科学	木材科学講座3「物理」(海青社:高橋徹・中山義雄編)第1章～第4章のうち木材に関する基礎事項、及び、木材科学講座8「木質資源材料」(海青社:鈴木正治・徳田迪夫・作野友康編 改訂増補):第1章木質資源と材質特性-第1節～第3節、または、これら2冊と同等以上の木材及び木質材料に関する専門書
	森林化学	専門	木質化学	木質の形成第2版(福島ら編) 4章(リグニン)および5章(抽出成分) 海青社 木材の化学(原口ら著) III章(リグニン)およびIV章(抽出成分) 文永堂出版
		専門基礎	有機化学	ベーシック有機化学 第2版(山口ら著) 化学同人
	生物資源化学	専門	木質化学	木質の化学(文永堂出版、日本木材学会編):「第1章 木材の組成と生成」「第2章 セルロースの化学」「第6章 木材の生分解」を試験範囲とする
		専門基礎	化学・生化学	生命系の基礎有機化学(化学同人、赤路健一・福田常彦 著)
	高分子材料学	専門	生物高分子材料学	木質の形成第2版(福島ら編) 1章(1. 10細胞壁構造)、2章(セルロース)および3章(ヘミセルロース) 海青社、自然に学ぶ材料プロセッシング(名古屋大学Nature COE)三共出版(いずれも参考書、詳細は担当教授まで)
		専門基礎	高分子化学	高分子化学序論(岡村ら(著)、物理化学キーノート(中村恒夫訳) シュプリンガーフェアラーク東京、
	森林圏環境資源科学	専門	植物生理生態・有機化学	1. 植物の生態-生理機能を中心に、裳華房、寺島一郎 著 2. ベーシック有機化学 第2版、化学同人、山口良平、山本行男、田村類 共著 のそれぞれの範囲から出題し、どちらかを選択
		専門基礎	生化学・植物生理学	ヴォート 基礎生化学 第4版、東京化学同人 に準ずる内容
	バイオマテリアル	専門	多糖科学・生体材料学	木質の形成第2版(福島ら編) 1章(1. 9単子葉植物の構造と形成,1. 10細胞壁構造)、2章(セルロース)および3章(ヘミセルロース) 海青社、自然に学ぶ材料プロセッシング(名古屋大学Nature COE)三共出版(いずれも参考書、詳細は担当教授まで)
		専門基礎	高分子化学・生命科学	高分子化学序論(岡村ら(著)、生命科学(東京大学生命科学教科書編集委員会編)羊土社

農業資源経済学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
農業資源経済学	食料農業政策学 農業経営学 食料経済分析学 食料流通学 環境生命経済学	専門	農業資源経済学	食料農業政策学、農業経営学、食料経済分析学、食料流通学および環境生命経済学から1問ずつ計5問を出題し、志望研究分野の問題を含む2問を選択回答させる。
		専門基礎	経済学	ミクロ経済学および政治経済学から1問ずつ計2問を出題し、1問を選択回答させる。 なお、参考図書は次のとおりである。 ミクロ経済学:西村和雄「ミクロ経済学入門 第2版」岩波書店 政治経済学:北村洋基「改訂新版 現代社会経済学」桜井書店

生命機能科学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
生物機能分子化学	生物化学	専門	生物化学	ヴォート基礎生化学(東京化学同人 第4版)第11章(酵素触媒)～第12章(酵素の反応速度論)と第24章(核酸の構造)～第27章(翻訳)までを試験範囲とする。
		専門基礎	生物化学	ヴォート基礎生化学(東京化学同人 第4版)第3章(ヌクレオチド、核酸、遺伝情報)～第7章(タンパク質の機能:ミオグロビンとヘモグロビン、筋肉の収縮、抗体)までを試験範囲とする。
	水族生化学	専門	免疫学・比較免疫学	自然免疫の液性因子の構造と機能(微生物分子パターン認識、補体による異物の排除)、自然免疫の細胞性因子、遺伝子再構成による抗原レセプターの多様性、抗体のクラススイッチと免疫記憶、抗原提示とT細胞の役割、サイトカインによる免疫応答の制御、アレルギーと自己免疫、魚類の免疫系の特徴、免疫機構を利用した水産生物の感染症制御
		専門基礎	分子・細胞生物学、生化学	エッセンシャル 細胞生物学(南江堂、Alberts et al. 著、中村桂子/松原謙一監訳)(1～10章)
	海洋資源化学	専門	海洋資源化学・海洋微生物学	生命の起源と海、海洋生物毒、生物発光、マリネゲノム、生物磁石、高度不飽和脂肪酸(DHA、EPA)、海洋微生物の分類・同定・生理・生態・利用。食中毒。水圏生化学の基礎(恒星社恒星閣)4章、5章。過去の問題を参考のこと。
		専門基礎	生化学(特に糖質・脂質)	ヴォート基礎生化学(東京化学同人 第4版) II. 生体分子 第3章から第10章まで。
	生物物理化学	専門	生物物理化学・生化学	専門基礎の範囲に加えて Mike Williamson「Essential タンパク質科学」南江堂を基本的に試験範囲とする。
		専門基礎	生物物理化学・生化学	「ヴォート基礎生化学 第4版」東京化学同人 P1～P278までを基本的に試験範囲とする。
	植物栄養学	専門	植物分子細胞生物学	植物の生化学・分子生物学(学会出版センター B. Buchananら著、杉山達夫監訳) 第1章、第2章、第3章、第4章、第7章、第9章、第13章、第15章、第16章、第17章、第18章、第22章、第23章。なお、過去の問題も参照のこと。
		専門基礎	植物生理学、植物栄養学、生化学、細胞生物学	植物生理学概論(培風館 桜井英博ら著) 第2,3,4,6,7,8,10,11,12,13章 植物栄養学(文英堂出版 間藤徹ら著) 第3,4章 ヴォート生化学(下)第4版(東京科学同人 D.Vogtら著 田宮信雄ら訳) IV 代謝(光合成) Essential細胞生物学 第4版(南江堂 B. Albertsら著 中村桂子ら訳)8,11,12,15,16章
	蛋白質化学工学	専門	遺伝情報伝達と維持機構	Essential細胞生物学(南江堂)または、類似の書籍の関連する章および、アーキアの遺伝情報伝達系に関する範囲から出題。過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	遺伝子工学・蛋白質化学	遺伝子工学—基礎から応用まで—(東京化学同人)または類似の書籍から遺伝子工学、蛋白質工学の基礎を出題する。
	農業薬剤化学	専門	農業化学	農業の科学-生物制御と植物保護-(桑野栄一ら編著、朝倉書店、2004)、農業の科学(山下恭平ら著、文永堂、1996)、新しい農業の科学(宮本純之著、廣川書店、1994)。また過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	有機化学	現代有機化学(ボルハルト・ショア著、大島幸一郎他訳)
	植物分子機能学	専門	植物分子生物学・ゲノム工学	植物の生化学・分子生物学(学会出版センター、Buchanan BB, Grussem W, Jones RL 編、初版)、パート1～3(ページ3～659)。進化するゲノム編集技術(NTS出版社、真下知士、城石俊彦監修、初版)。過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	分子生物学	Essential細胞生物学(南江堂、中村桂子、松原謙一監訳、原初第3版)項目2(P40-63)、項目7～10(P232-354)、項目14&15(P453-526)

生命機能科学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
システム生物学	遺伝子制御学	専門	分子細胞生物学	遺伝子の構造や発現制御に関して、Essential 細胞生物学(南江堂、中村桂子、松原謙一監訳、原書第4版):1章~10章と細胞の分子生物学(Newton Press、第6版):4章、6章、7章から基礎的な内容を出題範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	細胞生物学	細胞の基礎的な知識に関して、Essential 細胞生物学(南江堂、中村桂子、松原謙一監訳、原書第4版):1章~10章を出題範囲とする。
	細胞制御工学	専門	細胞工学	細胞工学(講談社、永井和夫他著、改訂)を試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	細胞生物学	Essential細胞生物学(南江堂、Bruce Alberts他著、原書第4版)
	合成生物学	専門	合成生物学	遺伝子スイッチ(オーム社、Mark Ptashne著)(p.1-154)、細胞を創る・生命システムを創る(羊土社、竹内昌治、上田泰己編)(p.18-215)
		専門基礎	システム生物学	システムバイオロジー(秀潤社、北野宏明著)序章から第11章(p.12-272)
	発酵化学	専門	微生物生産	微生物細胞の構造・機能、微生物の有用物質生産への利用
		専門基礎	応用微生物学	遺伝子から見た応用微生物学(朝倉書店、熊谷英彦他著)
	微生物工学	専門	微生物工学	発酵工学の基礎(P.F.Stanbury, A.Whitaker著、石崎文彬訳、学会出版センター)の第1章から第7章を試験範囲とする。過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	基礎微生物学	応用微生物学第2版(文永堂出版)のII章、III章、IV章、VII章を試験範囲とする。2018年度入学の入試に限り、第2版(新版は第3版であるので注意)を指定教科書とする。
	土壌環境微生物学	専門	土壌環境微生物学	応用微生物学(文永堂出版、横田篤他著、第3版)
		専門基礎	細胞生物学	Essential細胞生物学(南江堂、Bruce Alberts他著、原書第4版)
	生物機能デザイン	専門	アミノ酸の代謝生化学・タンパク質の栄養生理学	①ヴォート生化学(東京化学同人)第21章「アミノ酸代謝」および第22章「哺乳類燃料分子の代謝」、②基礎栄養学(南江堂、編集 奥恒行、柴田克己:改訂第3版)第8章「タンパク質の栄養」、③タンパク質・アミノ酸の新栄養学(講談社サイエンティフィック、編集 岸恭一、木戸康博)第1編 第6章「アミノ酸代謝」、第7章「アミノ酸による遺伝子発現の調節」、第II編 第3章「アミノ酸の栄養」、を出題範囲とする。また、過去の出題問題も参照すること。
		専門基礎	分子生物学・遺伝子工学・実験動物学	①Essential細胞生物学(南江堂、Bruce Alberts他著、原書第4版)第7章から10章を出題範囲とする。さらに参考図書として「ノックアウトマウスの一生」(技術評論社 八神健一著)の一読を勧める。また、過去の出題問題も参照すること。
	バイオプロセスデザイン	専門	代謝反応解析	バイオケミカルシステム理論とその応用(産業図書、白石文秀著):第1章から第7章までを試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	数値計算法	求根法(Newton-Raphson法、挟み打ち法など)、常微分方程式解法(Euler法、Runge-Kutta法など)、最小二乗法の計算原理、およびこれらの手法を用いた代謝反応データの解析について出題する。また、過去に出題した問題を参考のこと。
	家蚕遺伝子資源学	専門	家蚕遺伝子資源学	昆虫機能利用学(朝倉書店、鈴木幸一他著)、最新応用昆虫学(朝倉書店、田付貞洋・河野義明編)を試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	遺伝学・昆虫学	Essential細胞生物学(南江堂、Bruce Alberts他著、原書第4版):第18章細胞周期および第19章性と遺伝学を試験範囲とする。分子昆虫学(共立出版、神村ら編)。また、過去に出題した問題を参考のこと。
	植物遺伝子資源学	専門	植物遺伝子資源学 植物遺伝子工学	「植物育種学」(東京大学出版会、鶴飼保雄著):第3章遺伝資源の探索と導入、第10章突然変異育種、第12章遺伝子組換え育種、を試験範囲とする。また、過去の出題問題を参照すること。
		専門基礎	遺伝学 細胞生物学 発生生物学	「生命科学のための基礎シリーズ 生物」(実教出版、星元紀他著):第2章分子から細胞へ、第3章個体の生物学、を試験と範囲する。また、過去の出題問題も参照すること。
微生物遺伝子資源学	専門	微生物遺伝子工学	遺伝子工学(東京化学同人、野島博著):第1章から第8章までを試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。	
	専門基礎	微生物学	Brook 微生物学(オーム社、Michael T. Madigan, Jack Parker, John M. Martinko 共著、室伏 きみ子、関 啓子(監訳))	

生命機能科学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
食料化学工学	食糧化学	専門	食品機能化学	「食品因子の栄養機能制御」、建帛社
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学」、「基礎分析化学」など) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」、「ボルハルト・ショアー現代有機化学」など) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学」、「エッセンシャル細胞生物学」など) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答
	栄養化学	専門	三大栄養素(糖質、タンパク質、脂質)	基礎栄養学(奥恒行、柴田克己編集 南江堂、改訂第5版)第3章栄養素代謝の概要、第5章消化・吸収と栄養素の体内動態(G.食物繊維・難消化吸収性糖質の作用を除く)、第6章タンパク質の栄養、第7章糖質の栄養、第8章脂質の栄養を出題範囲とする。
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学」、「基礎分析化学」など) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」、「ボルハルト・ショアー現代有機化学」など) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学」、「エッセンシャル細胞生物学」など) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答
	食品分析学	専門	食品分析	食品分析学(培風館)第1章から第8章まで
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学」、「基礎分析化学」など) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」、「ボルハルト・ショアー現代有機化学」など) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学」、「エッセンシャル細胞生物学」など) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答
	食品衛生化学	専門	食品衛生学	「新スタンダード栄養・食物シリーズ8 食品衛生学」、東京化学同人
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学」、「基礎分析化学」など) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」、「ボルハルト・ショアー現代有機化学」など) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学」、「エッセンシャル細胞生物学」など) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答
	食品製造工学	専門	食品製造工学	食品工学入門(食品を造る基礎科学)の全範囲から出題。カルチュレード(株) ISBN978-4-905179-07-8
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学」、「基礎分析化学」など) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」、「ボルハルト・ショアー現代有機化学」など) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学」、「エッセンシャル細胞生物学」など) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答

(博士前期(修士)課程)

研究分野及び指導教員一覧

(平成29年4月1日予定)

※研究内容等の詳細についてはホームページ(<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/organization/teacher/index-mas.html>)を参照すること。

専攻	教育コース	研究分野	教授	准教授・講師	専攻	教育コース	研究分野	教授	准教授・講師
資源生物科学	農業生物科学	植物育種学	吉村 淳	安井 秀	農業資源経済学	農業資源経済学	食料農業政策学	伊東 正一 ^{注1}	磯田 宏
		作物学		石橋 勇志			農業経営学	南石 晃明	
		植物生産生理学	上野 修	斎藤 和幸			食料経済分析学	前田 幸嗣	
		植物病理学	古屋 成人	飯山 和弘			食料流通学	福田 晋	森高 正博
		園芸学		若菜 章 ^{注1}			環境生命経済学	矢部 光保	高橋 義文
		動物学	飯田 弘	岩森 巨樹		生物機能分子化学	生物化学	(兼)角田 佳充	
		昆虫ゲノム科学	日下部 宜宏				水生化学	中尾 実樹	杉本 智軌
		昆虫学	廣渡 俊哉	紙谷 聡志			海洋資源化学	伊東 信	沖野 望
		天敵微生物学		青木 智佐			生物物理化学	角田 佳充	西本 悦子
		天敵昆虫学		上野 高敏・津田 みどり			植物栄養学	松岡 健	山川 武夫・丸山 明子
		生物保護管理学	高須 啓志				蛋白質化学工学	石野 良純	
		農業生産生態学	望月 俊宏	尾崎 行生			農業薬剤化学		平島 明法
		生物環境調節学	吉田 敏	江口 壽彦			植物分子機能学		中村 崇裕
		熱帯作物・環境学	緒方 一夫	宮島 郁夫			システム生物学	遺伝子制御学	
	植物光生理学		松下 智直	細胞制御工学		片倉 喜範			
	動物・海洋生物科学	家畜生体機構学	田畑 正志	西村 正太郎	合成生物学	岡本 正宏 ^{注1}		花井 泰三	
		動物繁殖生理学		山内 伸彦	発酵化学	竹川 薫			
		畜産化学		辰巳 隆一	微生物工学	園元 謙二		中山 二郎	
		代謝・行動制御学	古瀬 充宏	安尾 しのぶ	土壌環境微生物学	酒井 謙二		田代 幸寛	
		家畜生産生態学		後藤 貴文	生物機能デザイン	古屋 茂樹			
		海洋生物学	松山 倫也	太田 耕平	バイオプロセスデザイン	白石 文秀			
		水産増殖学		望岡 典隆	家蚕遺伝子資源学			伴野 豊	
		水産生物環境学	大嶋 雄治	島崎 洋平	植物遺伝子資源学	熊丸 敏博		久保 貴彦	
		アクアフィールド科学	吉国 通庸		微生物遺伝子資源学	土居 克実			
		環境農学	生産環境科学	灌漑利水学	凌 祥之		食料化学工学	栄養化学	佐藤 匡央
	水環境学			平松 和昭	原田 昌佳	食糧化学		立花 宏文	
土環境学				東 孝寛	食品分析学	松井 利郎			
土壌学	(兼)				食品製造工学	下田 満哉		井倉 則之	
気象環境学	北野 雅治			安武 大輔	食品衛生化学	宮本 敬久		本城 賢一	
農業生産システム設計学	井上 英二			岡安 崇史・平井 康丸					
森林環境科学	農産食料流通工学		内野 敏剛 ^{注1}	田中 史彦					
	植物代謝制御学			渡辺 敦史					
	森林計画学		吉田 茂二郎	溝上 展也					
	森林保全学		久保田 哲也	水野 秀明					
	造林学			玉泉 幸一郎 ^{注1}					
	森林政策学		佐藤 宣子	藤原 敬大					
サステイナブル資源科学	森林生産制御学		大賀 祥治	榎木 勉・古賀 信也・内海 泰弘					
	流域環境制御学		大槻 恭一	笠原 玉青・菱 拓雄 智和 正明					
	木質資源理学		松村 順司						
	木質材料工学		中尾 哲也	藤本 登留					
	森林化学		堤 祐司	小名 俊博					
	生物資源化学		北岡 卓也	一瀬 博文					
高分子材料学	近藤 哲男	巽 大輔							
森林圏環境資源科学	久米 篤	清水 邦義							
バイオマテリアルデザイン	(兼)近藤 哲男								

注1 平成30年3月31日定年退職予定者

(博士後期課程)

研究分野及び指導教員一覧

(平成29年4月1日予定)

※研究内容等の詳細についてはホームページ(<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/organization/teacher/index-doc.html>)を参照すること。

専攻	教育コース	研究分野	教授	准教授・講師	専攻	教育コース	研究分野	教授	准教授・講師			
資源生物科学	農業生物科学	植物育種学	吉村 淳	安井 秀	農業資源経済学	農業資源経済学	食料農業政策学	伊東 正一 ^{注1}	磯田 宏			
		作物学		石橋 勇志			農業経営学	南石 晃明				
		植物生産生理学	上野 修	斎藤 和幸			食料経済分析学	前田 幸嗣				
		植物病理学	古屋 成人				食料流通学	福田 晋				
		園芸学		若菜 章			環境生命経済学	矢部 光保				
		動物学	飯田 弘				生物化学 ^{注2}	(兼)角田 佳充				
		昆虫ゲノム科学	日下部 宜宏		水族生化学	中尾 実樹						
		昆虫学	廣渡 俊哉	紙谷 聡志	海洋資源化学	伊東 信	沖野 望					
		天敵微生物学		青木 智佐	生物物理化学	角田 佳充	西本 悦子					
		天敵昆虫学		上野 高敏・津田 みどり	植物栄養学	松岡 健	山川 武夫・丸山 明子					
		生物保護管理学(旧専担)	高須 啓志		蛋白質化学工学	石野 良純						
		農業生産生態学	望月 俊宏	尾崎 行生	農業薬剤化学		平島 明法					
		生物環境調節学	吉田 敏	江口 壽彦	植物分子機能学		中村 崇裕					
		熱帯作物・環境学	緒方 一夫	宮島 郁夫	遺伝子制御学		田代 康介					
	植物光生理学		松下 智直	細胞制御学		片倉 喜範						
	動物・海洋生物科学	家畜生体機構学	田畑 正志	西村 正太郎	生命機能科学	システム生物学	合成生物学	岡本 正宏 ^{注1}	花井 泰三			
		動物繁殖生理学		山内 伸彦			発酵化学	竹川 薫				
		畜産化学		辰巳 隆一			微生物工学	園元 謙二	中山 二郎			
		代謝・行動制御学	古瀬 充宏	安尾 しのぶ			土壌環境微生物学	酒井 謙二				
		家畜生産生態学		後藤 貴文			生物機能デザイン	古屋 茂樹				
		海洋生物学	松山 倫也				バイオプロセスデザイン	白石 文秀				
		水産増殖学		望岡 典隆			家畜遺伝子資源学		伴野 豊			
		水産生物環境学	大嶋 雄治	島崎 洋平			植物遺伝子資源学	熊丸 敏博				
		アクアフィールド科学	吉国 通庸				微生物遺伝子資源学	土居 克実				
		生産環境科学	灌漑利水学	凌 祥之				食料化学工学	食料化学工学	栄養化学	佐藤 匡央	
			水環境学	平松 和昭			原田 昌佳			食糧化学	立花 宏文	
			土環境学				東 孝寛			食品分析学	松井 利郎	
土壌学			(兼)				食品製造工学			下田 満哉	井倉 則之	
気象環境学	北野 雅治		安武 大輔	食品衛生化学	宮本 敬久	本城 賢一						
農業生産システム設計学	井上 英二		岡安 崇史・平井 康丸									
農業食料流通工学	内野 敏剛 ^{注1}		田中 史彦									
環境農学	森林環境科学		植物代謝制御学		渡辺 敦史							
			森林計画学	吉田 茂二郎	溝上 展也							
			森林保全学	久保田 哲也								
		造林学		玉泉 幸一郎 ^{注1}								
		森林政策学	佐藤 宣子									
		森林生産制御学	大賀 祥治	榎木 勉・古賀 信也								
		流域環境制御学	大槻 恭一									
		バイオマテリアルデザイン	(兼)近藤 哲男									
サステイナブル資源科学	木質資源理学	松村 順司										
	木質材料工学	中尾 哲也	藤本 登留									
	森林化学	堤 祐司	小名 俊博									
	生物資源化学	北岡 卓也	一瀬 博文									
	高分子材料学	近藤 哲男	巽 大輔									
	森林圏環境資源科学	久米 篤	清水 邦義									

注1 平成30年3月31日定年退職予定者
注2 生物化学研究分野は募集を行わない。